

ヒラメ稚魚放流の経緯

いすみ市、大原港では毎年、ヒラメ、マダイ、イサキの稚魚を3万尾～10万尾の放流を行なっております。マダイの一回目の放流は8月頃で地元大原港の青年部が中間育成をし8cm～10cm程度に育ちあげてから放流。またヒラメに関しては現在は年に2回の放流を積極的に行なっており、その一回目は7月頃で勝浦若潮高校、海洋科学系列の先生、生徒と大原の釣り船が行なっております。

私達、釣り船と勝浦若潮高校の海洋科学系列とは、20年の、お付き合いがありまして、最初は釣り船の有志のグループが稚魚資金の募金活動を行い勝浦若潮高校に協力を求める事からはじまりました。

今、資源が減少して行く中で、育てる漁業、稚魚放流が全国的にも重要視されています。

県の栽培漁業センターでカバーしきれない、魚種・匹数を勝浦高校と2001年より、ここ11年続けておりまして、おもに、ヒラメ、マダイ、イサキ等の稚魚を生徒達と一緒に放流しております。

今回は、その活動の中に大原小学校（5年生、69名）が、社会科の授業の一環として是非参加したいとの依頼を受けました。

今回の、このイベントは最大で初めての試みですが、子供たちの教育の一環とともに地域活性化が成されればと考えております。

実施日 2012年7月4日

当日、大原港釣り船、大原小学校児童（69名）勝浦高校生徒と共にヒラメ稚魚放流を実施します。

- ☆ 勝浦高校イケスからトラックの稚魚の積み込み
- ☆ トラックから船への稚魚の積み込み
- ☆ 出船～小学生と高校生による稚魚放流～勝浦高校の先生による潜水放流
その後、10分程度のクルージングを行い15時15分頃帰港
帰港後集合写真を撮ってから解散となります

※千葉テレビ・読売新聞・毎日新聞・釣り情報・釣り丸・釣りニュースが当日取材